

今月の「草の根」情報！

今回は、M外部委嘱調査員から草の根の中期戦略について、御案内することにしたいと思います。

最近の草の根関連の動きについて御紹介しますと、平成19年度分として案件のりん請（注：大使館から外務省（本省）に対して、予算を含めた案件等の要請を出すことを：「りんせい：稟請」と言います。古い言葉が残っていますようで・・・）を始めていますが、その内4案件について承認がぼちぼちと来始めました。以下の4つについて、まもなく契約ができる見通しです。

- ①オランジエ産科病院研修センター整備計画 ラバト市で、ラバ・ビル駅裏です。
- ②ドウトスギデルト集落飲料水供給計画 シュトカ・アイト・バハの集落が対象。
- ③トユグザ地区道路整備計画 ティズニットの案件です。
- ④ティグナチン・タシュリフト集落飲料水供給計画 タルーダントの集落が対象。

この他、アガディールのU専門家（JICA）から、今年の南部アガディール周辺地域の干魃・渇水状況はかなり厳しく、給水支援についての要請があちこちから寄せられているとのお知らせがあったので、急遽3泊4日でシュトカ・アイト・バハ、タルーダント、ティズニットの3地域の県庁や水利局、村落の渇水状況、給水状況を同専門家の御協力により視察して参りました。例えば、アイト・バハやタルーダントでは、地形的に井戸が機能しない土地柄（あっても水位が下がってしまっている）と、雨期に十分な降雨が無かったことにより、頼みの綱のマトフィーヤ（雨水貯水槽）が枯渇（か、寸前）しており、給水車なしでは給水がままならない等、状況はかなり深刻でした。このような厳しい状況が継続すると、住民が村を捨てて町に降りてしまうと県庁の人々も心配していました。なお、たまたま遭遇した嬉しい話としては、前回の干魃の際の2000年に草の根で供与した給水車が未だに現役で走っており、なんと（砂利道の山間部を走っているのにもかかわらず）34万kmの走行距離となっていたというのを目の前に見ることができたことがあげられます。これには、大変驚かされましたが、とにかく給水車の台数が足りないといった状況が良く解りました。台所事情の厳しい中にはありますが、何かできたらと考えているところです。

（草の根チーム長：八田）

今回執筆いたしますMです。

それでは、当館の設定している、平成18年度以降における草の根・人間の安全保障無償資金協力の重点地域及び重点分野について説明します。

【制度編（3）対モロッコ草の根無償・中期戦略】

モロッコ王国は、日本よりも大きく、また地域による性格も大きく異なり、更には歴史的な経緯もあって地域間や社会間の格差が大きいため、草の根での無償援助を行うにしてもそれなりのテーマや重点地域を設定しないと、行き当たりばったりで何をしているのか見えにくくなってしまいそうです。そういうこともあって、規模は小さいながらも、JICAやJBICで実施してきている既存の円借款や、一般無償等の案件のフォローアップや補完的な位置づけのことができるように連携を意識していくこと、また、各種技術協力（専門家、JOCV、SV）の側面支援と相乗効果を勘案して重点的に案件実施を行うことも重要だと考えて、昨年7月から、重点となる「地域」と「分野」を設定しています。

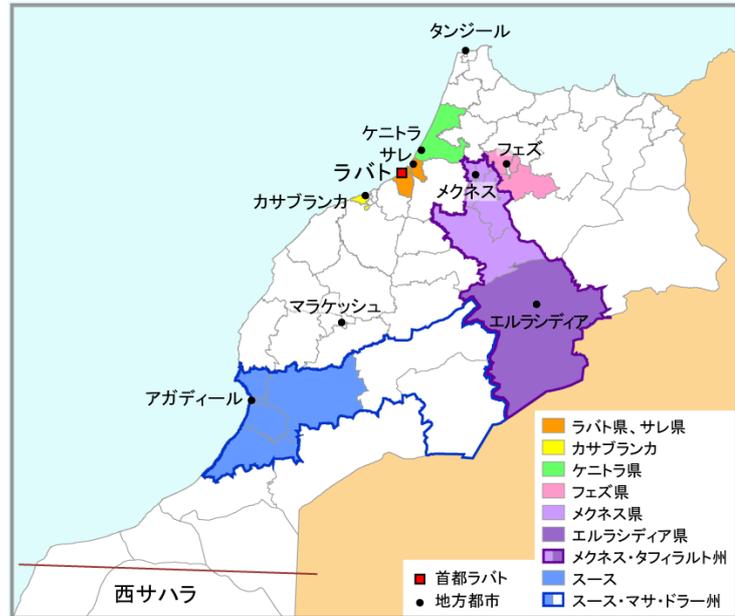
また、重点地域を設定をすることは、日本よりも広いモロッコであるからこそ、草の根無償を実施するに当たって必須となる事前調査、中間確認、完了検査等の実施を効果的に行う上でも必要と思っています。

(1) 重点地域

モロッコで推進中の、「人間開発に係る国家イニシアティブ（INDH）」において対象となる最貧地域を一つの基準として、①一貫性のある案件実施により効果、ビジビリティを高めると共に、②円借款、一般無償による実施案件やモロッコ JICA 事務所の青年海外協力隊（JO CV）の配置戦略等を踏まえ、それらのフォローアップ、補完、相乗効果を期待しています。

【首都圏（ラバト、サレ、カサブランカ、ケニトラ周辺）】

やはり、首都圏やその周辺はアクセスも良く、ビジビリティも高いので、一定数については、優先候補になります。



【エルラシディア県（メクネス・タフィラルト州）】

最貧コミュニティを多く抱える地域の一つであるエルラシディアは、これまで日本の協力の実績としても伝統的灌漑施設（ハッターラ）の修復・整備案件を多く実施してきており、同分野における我が方の貢献が認知されているので、引き続き同取り組みを継続していくことが重要だと考えています。ハッターラは砂漠化防止の使命を有していることもあり持続可能な発展・環境的側面からも重視しています。

【アガディール（スース・マサ・ドラー州：特にスース）】

最貧コミュニティを多く抱える地域の一つであるアガディール周辺地域は、アトラス山脈沿い給水面で困難の残る地域が広がっており、同地域での給水事業を充実させることは、引き続き重要と見られます。また、幹線道路までの舗装が未整備の村落等に対して引き続きアクセス確保に支援をおこなって行く予定です。

【メクネス市、フェズ市周辺】

以下の（2）の重点分野との相関もあり、地方村落妊産婦ケア改善計画と関連技術プロジェクトの効果の維持、発展を視野に相乗効果を期待しています。主に保健センター、産院等を対象としていく予定です。

(2) 重点分野

【保健・医療・妊産婦ケア・女性の地位向上：WID】

メクネス、フェズ周辺地域において、INDH及び我が国の無償資金協力、技術協力プロジェクト、各種ボランティア派遣により実績と持続性を確保している保健・医療分野を当面の重点分野としていきます。

【水資源開発】

当国において、BHNの中でも重要課題と位置づけられており、特に地方村落部における生活・農業用灌漑及び飲料水確保事業に引き続き関与していく必要があります。同分野においては、円借款、一般無償、技術協力と多角的に関与してきており、同実績と持続性を確保する意味でも

重要です。なお、重点対象地域として、エルラシディア（エルフード、メルズガ近辺）のハッターラ修復・整備計画の継続、アガディール周辺の給水計画を予定しています。

【教育・女性の地位向上】

非識字率が依然高く、都市部、地方村落の双方における同取り組みへの支援はINDHの主要課題となっています。また社会活動への編入の観点から、職業訓練、女性の地位向上プログラムについても重点課題としていきます。

以上のような方針を設定していますが、大体の目安と考えていただければと思います。当設定に沿わない計画であっても緊急性、重要性が確認できる計画に対しては随時対応していく方針です。

紙面の都合がよろしいようで、今回の（今月の「草の根」情報！）は、この辺で失礼させていただきます。

ありがとうございました。

以上 2007年6月
（文責：外部委嘱調査員 N.M）